

「2011ライフサイエンス知財フォーラム」 2011年2月10日(木) 経団連会館にて開催

2011年2月10日(木)午後1時から東京・大手町 経団連会館 国際会議場にて(財)バイオインダストリー協会との共催による「2011ライフサイエンス知財フォーラム」を開催します。

1993年に発効した生物多様性条約(CBD)は、(1)生物多様性の保全、(2)生物多様性の構成要素の持続可能な利用、(3)遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分の三つを目的としています。しかし、条約発効後は利益配分のあり方をめぐる議論が繰り返され、2002年にはボンガイドラインが策定されるなど、より経済的に影響力の大きい条約に変貌してきました。その結果、ライフサイエンス分野における研究開発活動や事業そのもの、さらにその成果の一部である特許の取り扱い等に大きな影響を及ぼしつつあります。

10月に名古屋で開催されたCOP10の成果を踏まえ、避けて通れない課題となりつつあるCBDがライフサイエンス分野に与える影響を検証し、産業界や大学の立場で今後私たちは何をすべきか、何に注意したらよいか、知財の視点も入れて現状を認識し、将来の課題が整理できることを目指します。

プログラム(敬称略)
フォーラム：午後1時～午後5時25分
懇親会：午後5時30分から
●講演者、パネリスト、内容等は変更になる場合があります。
●参加費はフォーラムは無料、懇親会は5,000円です。

第Ⅰ部 基調講演

【生物多様性条約：COP10を振り返って 日本の歩むべき道】(仮)
鈴木 正規 環境省自然環境局長

第Ⅱ部 プレゼンテーション

- 【生物多様性条約とABS問題】
磯崎 博司 上智大学大学院 地球環境学研究所 教授
- 【生物多様性条約を取り巻く国際環境—世界の流れは—】
炭田 精造 財団法人バイオインダストリー協会 生物資源総合研究所長
- 【特許制度に関する議論と今後の課題—出所開示問題と伝統的知識の保護—】
田上 麻衣子 東海大学法学部法律学科 准教授
- 【海外生物資源アクセス—資源国は何を求めているのか?—】
二村 聡 株式会社ニムラ・ジェネティック・ソリューションズ 代表取締役社長
- 【植物遺伝資源利用の現状と課題】
森岡 一 CBD-ABS研究会
- 【漢方生薬業界の課題】
浅間 宏志 日本漢方生薬製剤協会
- 【大学における伝統薬研究の現場から】
小松かつ子 富山大学和漢医薬学総合研究所 教授

第Ⅲ部 パネルディスカッション

〈コーディネーター〉 渡辺 裕二(製薬協知的財産委員会委員長/アステラス製薬(株)知的財産部)
〈パネリスト〉 磯崎 博司/炭田 精造/田上麻衣子/二村 聡/森岡 一/浅間 宏志/小松かつ子

懇親会(経団連会館 経団連ホール北)

お問合せ先：2011ライフサイエンス知財フォーラム準備委員会事務局
日本製薬工業協会 知的財産委員会 担当：古明地/稲場
Tel: 03-3241-0326 Fax: 03-3242-1767 E-mail: ip-forum2011@jpma.or.jp
※お申し込みは製薬協ウェブサイト(<http://www.jpma.or.jp/>)にて受け付けています。